

我が家の地震対策を確認しよう

大規模地震の被害を抑えるために、「家具の固定」と「建物の耐震化」が重要です。

家具を固定しよう

過去の災害でけがをした人の4割以上は家具の転倒などが原因です。建物を丈夫にしても、家具が倒れてけがをしてはなにもなりません。自分の身を守るため、安全対策を行いましょう。

●家の中をチェック

家具・大型家電（例：たんす、冷蔵庫など）の転倒防止

- 壁などに固定しているか
- (固定できない場合) 天井との間に突っ張り棒を設置しているか
- (固定できない場合) 床との間に転倒防止板を敷くなどしているか

家電（例：テレビ、電子レンジなど）の転倒・落下防止

- 壁にベルトで固定しているか
- 防振マットや耐震ジェルなどを敷いているか

家具類の設置場所

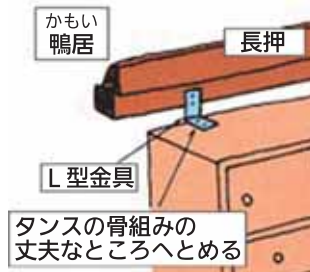
- 居間や寝室に置かないようにしているか

飛散防止

- 窓ガラスや鏡、食器棚に飛散防止フィルムを貼るなどの対策をしているか
- 食器棚から皿やグラスが飛び出さないように対策をしているか

●家具の固定方法のポイント

- ・L型金具などで固定する場合、壁の下地がある所か、かもいに取り付ける
- ・家具と天井を突っ張り棒で固定する場合、天井とのすき間が少ないようにする



●自力で家具固定できない場合（家具転倒防止事業）

5品までの取り付け費用を市が負担します。※固定器具の代金は本人負担です。

対象 高齢者のみの世帯、障がい者を含む世帯、介護認定を受けている世帯など。

問合せ 危機管理課（☎983-2650）

建物を耐震化しよう

阪神淡路大震災で亡くなった人の約8割は倒壊家屋の下敷きが原因です。昭和56年以前に建築された木造住宅は特に耐震化が必要です。

●耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」の利用

対象 昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅

補助の内容 次の①～③の補助を受けられます。

- ①診断する（わが家の専門家診断事業）
…市が派遣する専門家による耐震診断を無料で受けられます。
- ②補強方法を考える（既存建築物耐震診断事業）
…補強計画の作成（設計）にかかる費用に対する補助金が出ます。※上限14万4千円。①の耐震診断を実施していない場合は上限15万4千円。
- ③補強工事をする（木造住宅耐震補強助成事業）
…補強工事に対する補助金が出ます。※上限額（条件あり）は一般世帯50万円、高齢者などの世帯70万円

問合せ 建築指導課（☎983-2644）



わたしたちの自主防災組織

北沢町内会長 勝亦 茂夫さん

平成25年に水防訓練、消火訓練などを実施する中で、消火器の場所を知らない人が多いことが分かりました。

そこで、今年の9月に災害時の行動や避難経路、消



火器の位置、防災備蓄リスト、自主防災組織の役割や班編成などを含めた「北沢自主防災マニュアル」を作成しました。このマニュアルを全戸に配布し、黄色いハンカチによる安否確認、無線連絡訓練などを実施していく予定です。

また、町内会で地元の建設業者やコンビニ、農家などと「災害時応援協定」を締結し、心強い味方を得ました。防災はまず「自助」、そして「共助」が大切であると考えています。

楽寿園の歴史 懐かしの風景

十一月三十日(日)まで開催の

企画展「楽寿園の歴史」の中から
開園当初の楽寿園をご紹介します。

小松宮家別邸であった小浜の地は、李王家、緒明家の所有を経て市立公園「楽寿園」となります。昭和二十六年(一九五二)、三島市制施行十周年記念行事案として緒明邸の一部を市立公園にするという構想が持ち上がり、昭和二十七年(一九五二)七月十五日に市立公園「楽寿園」が開園しました。開園後の二日間は無料開放し、約二万六千人が入園しました。

その後、遊具の設置や動物の飼育が行われるようになりました。動物の飼育は、園内で保護されたタヌキをトラライに入れて見せたのが始まりといわれています。次第に、ニホンザル・クジャク・アナグマ・鹿・ライオンなどが飼育され、昭和二十九年(一九五四)にインドゾウ(ふじ子)が、昭和三十

三年(一九五八)にはケニアからキリン(いずみ)がやってきました。遊具はロケット飛行塔・木馬・豆自動車・キャタピラー・空飛ぶ円盤などが設置されました。催物館では、多彩なイベントが行われ、娯楽施設として賑わいました。「アフリカ探検」では、草原、ジャングル、原住民やカバ、サイ、ワニ、ゴリラなどを実物大の張り子で作り、アフリカの山野のように見せました。「海底と秘境探検」では、エジプト王室やポンペイ遺跡、深海魚と大イカ、海底火山などを制作しました。



▲写真 遊具(キャタピラー)

楽寿園は庭園だけでなく、遊園地・動物園が融合した娯楽施設として賑わいました。



▲写真 アフリカ探検



▲写真 昭和30年頃の菊人形展の様子

現在でも行われている「菊まつり」は開園当初から行われており、昭和四十年代頃までは菊人形が作られていました。菊人形は全十二場面ほどの構成で、菊人形を作る菊師、セツトを作る歌舞伎の大道具係、小道具係を呼ぶなど大掛かりなものでした。

その後、三島の「菊人形」は次第に有名になり、県外からも観光客が押し寄せるほどになりました。菊人形が制作されなくなった後も、人形を見たいという人は後を絶たず、菊人形に代わるものとして現在の「大型菊盆景」が作られました。

展示期間中は楽寿園の懐かしい風景の写真も募集しています。皆さんがご持ちの明治から昭和までの楽寿園の写真をお持ちください。



ふるさとの人物ゆかりの地⑧

井出志摩守正次

井出志摩守正次は天正から慶長(徳川幕府成立前後)に三島代官を務めた人物です。今川氏次いで徳川家康に仕え山中城攻めにも参加しました。

慶長十四年(一六〇九)に家康が上洛する際、正次は富士川に鎖で船を繋いだ船橋を作ることになりました。その船橋は家康が通過した後、鎖が切れて人々が川に流れしまし、正次は家康の元へ報告に向かいます。しかし休憩中の家康を追い抜き、別の人が報告を行うという失敗を犯してしまいます。責任を感じた正次は、三島に戻ると自分が建立した蓮行寺で自害しました。

蓮行寺は昭和三十年(一九五五)に伊豆国分寺と名前を変え、境内には井出志摩守正次の墓が現在も残されています。



▲伊豆国分寺(泉町)